

一般質問

この定例会では、議案や市政全般について、24人の議員が一般質問を行い、活発な議論を展開しました。

その概要は、次のとおりです。
（一）内には、各党派等からの質問申し出時間を記載していません。

党派名など	質問者数	質問時間
水曜会	7人	370分
公明党	6人	205分
誠友会	3人	150分
日本共産党	2人	145分
市民連合	2人	145分
新政クラブ	2人	100分
無所属	2人	各30分

*一般質問の録画放送を福山市のホームページで見ることができます。



早川 佳行
水曜会
(50分)

「1000人委員会」の取り組みの具体は

問 あらゆる世代の市民がまちづくりに向けたさまざまな課題について、構想の段階からまちづくりに参画してもらうための「1000人委員会」の取り組みの具体は。

答 市民の皆さまの幸せの実現

と次の世代に輝く福山を創るためには、市民に身近な市政を行う必要がある。あらゆる世代の市民の皆さまと共に考え、議論し、問題意識を共有する中で市民が望むまちづくりにつなげていくため、新たに1000人委員会を立ち上げるものである。

現在、部局横断的な体制で、委員会の仕組み、運営方法などについて先進地調査を実施するなど具体について検討をしている。年内にはこの取り組みがスタートできるようスピード感を持って取り組んでいく。



小林 茂裕
水曜会
(60分)

芦田川河口堰の弾力的な開放を

問 芦田川を市民の憩いの場にするためにも、豊かな海づくりのためにも、河口堰を開放すべきである。河口堰の弾力的開放についてどう考えるか。

答 河口堰は治水対策に合わせた塩害防止や工業用水を供給する機能を有しており、渇水時には河

口堰の貯留水を有効活用できるなど、市民生活や経済活動にとって重要な施設である。開放により河口湖内に塩水が侵入し工業用水が供給できなくなる恐れがあり、開放に当たっては多くの課題がある。現在、豊かな海づくりに向け、下水道処理施設などで栄養塩の管理運転をしているが、今後とも環境と漁業に対し好影響を与えるよう、河口堰の弾力的放流回数増加や放流方法について、国や関係機関との協議を続け、諸課題について整理していく。



高田 健司
水曜会
(50分)

中心市街地の活性化と都市の魅力向上への具体的な取り組みは

問 都市の「顔」づくりの具体と、伏見町などの再開発に対する庁内組織の体制、行政主導の取り組みは。

答 福山駅前、高度な都市機能を持ちつつも、若者や女性の視点なども取り入れたさまざまな機

能を有し「住む、観る、憩う、学ぶ、働く、集う」ことのできる都市の顔となるように整備しようとするものである。伏見町などの再開発については、中心市街地活性化の軸であることから、スピード感を持って取り組んでいく必要がある。そのため、建設局長の下、まちづくりの整備方針の作成や、地権者の合意形成など、事業の具体を推進する組織として、(仮称)福山駅前再生推進室を早急に立ち上げる。また、知事との合意に基づき、県、国にも参加してもらう形で協議する場を新たに設ける。

*9月定例会の一般質問の録画放送を見る場合

福山市のホームページ → 福山市議会 → 議会中継 → ここからご覧ください。